

令和元年度 第 1 回 学校運営協議会記録

		学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	令和元年 5 月 9 日 (木) 9 時 3 0 分～1 1 時 4 0 分		
出席者	藤田 隆一 鈴木 順子 角崎セル子 児玉 守美 嵯峨 富子 山田真由美 西方 茜 (PTA会長) 鈴木美津子 (地域コーディネーター) 秋山真貴子 (市教委) 小玉 智		
協議内容 委員発言内容 等	<p><任命状交付> 市教委： 任命状交付 市教委： 「コミュニティ・スクールの推進に係るアンケート（平成30年度）」の結果についての説明。 ・市教委では特に「4. 児童生徒に関すること」「5. コミュニティ・スクールの成果について」の項目を重視している。男鹿市全体としては、全国学力・学習状況調査の質問紙調査では県平均より評価が高くなっている。 ・コミュニティ・スクールの周知を進めるために、市の広報の12月号で特集を組む予定である。 ・情報交換会を9月と1月に予定している。</p> <p><校長あいさつ> 校 長： 4月からお世話になっている。美里小学校は学校と地域の結びつきが大変強い学校である感じている。ということはそれだけ地域の皆様のお世話になっているということである。大変ありがたい。皆様の力を借りながら、学校経営を進めていきたいと考えている。1年間、よろしく願います。 (出席者自己紹介) 会長に児玉守美氏、副会長に角崎セル子氏が選出された。</p> <p><コミュニティ・スクール事業について> 校 長： (資料をもとに確認)</p> <p><校内一巡(授業参観)> 1年生～6年生の授業参観</p> <p><学校経営説明> 校 長： ・明るく素直で、物事に真面目に、一生懸命取り組む子どもが多い。受け身的で、自ら判断し行動する力がやや不足していると感じている。 ・私見であるが、幸せになるために人は「①目標に向かってひたむきに熱く生きる」・「②思いやりをもって温かく生きる」・「③志をもって地域や社会、他人の役に立つように生きる」ことが大切だと考えている。そのために学校では、「知・徳・体」のバランスのとれた教育を行っていききたい。どれも大切だが、「知・徳」は夢の実現や自己実現を支える推進力で、正しい方向に導く力と心である「徳」を最も大切にしたいと考えている。そこで「明るく思いや</p>		

協議内容
委員発言内容
等

りのある子ども」を目指す子ども像の最上位に位置づけ、職員の意識化を図った。

- ・「確かな学力の育成」のために探究型の授業，伝え合う活動を大切にして，主体的に学び合う子どもの育成を目指している。また統合前の3地域の特色ある体験活動を引き継いでいるため，地域を学習の場とした体験学習が充実している。事前事後も含めて一つ一つの学習を大切にすること，実施後に必ず振り返りを行い次年度の計画（案）を作成することを申し合わせている。
- ・「豊かな人間性の育成」のために自己有用感を得られる学級づくりを目指している。そのために児童のよさを認め，褒めることを職員にお願いした。また自分の失敗体験から，集団の中で不適切な行動を取った場合，その子どもを指導することあるが，他のきちんとできている子どもを褒め，できない子どもに気付かせることもお願いした。さらに本校ではクリーンアップやなべっこ遠足，農園の作業などを縦割り活動で行っている。縦割り活動は子どもが自己有用感を感じる有効な手立てなので，大切にしていきたい。道徳を重点教科として全職員で研究を深めていく。
- ・「たくましい心と体の育成」は本校の課題の一つであると思われる。達成感を味わうことが次への意欲につながることを共通理解し，家庭と連携を図りながら一つ一つの活動を大切にしていきたい。
- ・学校経営のキーワードとして，「笑顔・凡事徹底・背中で範を示す」ことを職員に提示した。1年間，大切にしていきたい。

<意見交換>

A委員： 学校にいじめはあるか。

校長： 現段階ではないが，必ず起こり得るものと考えている。全職員でアンテナを高くして子どもを見守っている。定期的なアンケートも行っている

B委員： 校長から学校経営の説明があったが，保育園でもやっていることがあり，自分達のやっていることが間違いではないことが分かった。美里小に入る園児を育てているので，幼保小連携協議会議で説明してほしい。

校長： 今年度，機会があれば話したい。来年度の会議では説明するようにしたい。

B委員： 自信をもって堂々と自己紹介している1年生を見て，成長を感じた。学年が上がることに学習が難しくなっているが，先生方が丁寧に授業をし，一人ひとりに対応している。

C委員： 1年生から6年生へ順番に全学年の授業を参観したが，人数の差に驚いた。人数の少ない学級，多い学級，それぞれの授業によさがあった。どの授業もよく，ありがたい。

D委員： 子どもが小学生の時にPTAとして学校に関わったが，それ以後関わっていない。子どもと共に勉強していきたい。

E委員： 水筒の中身は何か。

C委員： 水かお茶である。

E委員： どの先生の授業も板書が分かりやすく丁寧で，文字がきれいだ。

A委員： 自分たちの頃とは違い，子どもたちは悠々としている。楽な感じがして，見ていて気持ちがいい。こせこせしていない。

C委員： 子どもたちは物怖じしていない。

協議内容
委員発言内容
等

- D委員：先生と子どもの距離が近い。
- F委員：「知徳体」を「徳知体」としたが、「知」は少ない人数だと目が届くし、多い人数だと切磋琢磨できる。しかし「徳」は目に見えにくく目立たないが、必ず現れる。「徳」を大切に進めてほしい。
- 市教委：コミュニティ・スクールには熟議・協働・マネジメントの3つの機能があるが、一番大切なのは熟議である。学校運営協議会委員は代表であり、地域みんなが同じ気持ちで子どもを育てることが大切である。大潟村で文科省の方が話したことだが、地域での学習や職場体験、見守り隊などの活動が充実していても、地域住民との意見交換や情報共有が不足していれば、十分とは言えない。委員以外の人々にも広げていくことが大切である。
- B委員：野石小は美里小に統合された。野石小は地域にあった地域の学校だったが、美里小に親しみを感じづらくなった。地域の人は学校で何をやっているのかわからない。校報で把握する程度で、地域住民との関わりは薄くなった。
- G委員：学校との距離が遠くなったので、地域の方々の接点が薄れた。自分の子どもが卒業すると、「あといいや」ということになる。
- C委員：学校の近くの地域では、老人会や婦人会など、関わりが多い。五里合・野石地域も関わってほしいが、人が分からないし、遠くて申し訳ないという思いもある。地域全体で支えてほしい。
- G委員：校報に、学校に関われる行事などが紹介されているが、学校に入りづらい。きっかけがないと入れない。
- C委員：五里合・野石地域では、学校に入ったことのない人も多いのではないか。高齢化が進んでいるし、交通手段もない。
- 校長：学校はいっぱいいっぱいなので、新しい行事など企画するのは難しい。現在行っている行事に、地域の方が参加してくれればありがたい。
- G委員：運動会などの大きな行事は、田植えや稲刈りの重なってしまう。
- B委員：海岸クリーンアップに野石の住民が参加すればいいのではないか。
- A委員：学区は広くなり子どもは少なくなった。地区ごとにクリーンアップはやっている。
- C委員：小学校の行事に、各地区毎に参加してはどうか。
- 校長：校報5月号でクリーンアップを紹介する。皆さんのネットワークを活用し、地域の方に参加を呼びかけてほしい
- E委員：地域のクリーンアップへの子どもの参加は、保護者の意識次第である。学校に加えて家庭が、子どもにどう関わらせるかを働きかけていく必要がある。
- D委員：五里合地区のクリーンアップは朝の6時から行っているが参加者数が多く、人数制限をかけている。
- B委員：海岸クリーンアップは野石小がずっと前から継続して行って来たもので、美里小が引き継いで行っている。
- 校長：今日は予定時間を超えるほど白熱し、充実した話合いがなされ感謝している。ここで話し合われたことを委員の皆様が地域に持ち帰り、子どものために学校・保護者・地域が協働できる体制を取っていければありがたい。1年間どうかよろしくおねがいする。